

「銅のすごい力を調べてみよう！」

「夏休み自由研究コンテスト」開催



各個人賞の授賞式。日本銅センターにて

―はじめてのコンテスト―

ICA（国際銅協会）と日本銅センターの共催で、小学4年生から中学3年生までを対象とした、「第1回銅のすごい力を調べてみよう！」夏休み自由研究コンテストを開催した。このコンテストは銅の超抗菌・抗ウイルス性能を一般の人により知っていただく機会を作りながら、若い世代の化学・銅への関心を高める教育支援を目的として行われた。

「銅の超抗菌抗ウイルス性能」をテーマにした自由研究を、夏休み期間を含む約3カ月間募集した。難しいテーマにもかかわらず、多数の優秀な研究の応募があった。

応募作品は、4名の審査員が評価を行った。

日本銅センター野崎明会長、JX金属株式会社ESG推進部副部長野田麻由氏、三菱マテリアル株式会社高機能製品カンパニー銅加工事業本部事業本部長室事業推進グループ長安藤正樹氏、群馬大学大学院理工学府教授板橋英之氏（役職はいずれも審査時）

厳正な審査の結果、11月28日に受賞者の発表、12月2日、日本銅センター会議室において個人の部の表彰式が執り行われ、

れた。

表彰式には受賞した小・中学生が全国から集まり、表彰状は日本電線工業会会長で、日本銅センター副会長の伊藤雅彦氏より授与された。

表彰式の後には、各受賞者から研究の発表があり、緊張しつつも誇らしげな表情で熱心に発表を行っていた。日本銅センターからはそれぞれの研究に対するコメントを送った。

最後に日本銅センターによる銅の抗菌性能に関するミニ講演を行った。

日本銅センター伊藤副会長は、「実験での苦労話や創意工夫した点など、皆さんの堂々とした発表を興味深く拝聴しました。大変頼もしく感じるとともに、将来が楽しみだなと深く感じた次第です。第2回が更に盛り上がることを大いに期待しています。受賞者の皆様、改めておめでとうございます。」とコメントした。

なお、団体賞は出張表彰式として12月14日に学校を訪問、表彰状は桑山専務理事より授与された。

初めて開催したコンテストであったが、実験を通しての気づき、体験が好評で、大盛況のうちに終了した。日本銅センターは今後もSTEM教育の必要性を考え、「銅の魅力伝える活動」を継続する。



最優秀賞 中学生

竹下 雄惺 東京都
「銅の抗菌作用の探求」

受賞のコメント
実験に納豆菌を使うことで、家で行う微生物実験のハードルを低くしたことがこのポイントです。今度はさらに踏み込んだ実験にも挑戦してみたいです



最優秀賞 小学生

チュアング周朔 東京都
「銅ってすごい！～銅の超抗菌効果の観察～」

受賞のコメント
大変だったのは、菌を綿棒に染み込ませて、全ての培地に擦り付ける作業でした。実験を通じ、銅に抗菌作用があることが分かって、驚きました



優秀賞 小学生

道幸 玲雄 兵庫県 「仏像には抗菌作用があるのか？」
野崎 莉子 東京都 「知ってびっくり！銅の力『こうきん作用のひみつ』」

優秀賞 中学生

丸森 楓 神奈川県 「どうにかしたい!! 剣士の悩み『小手が臭い!!!』」
井之上 理紗 兵庫県 「銅があると食パンにカビが生えない??」

審査員特別賞

住友金属鉱山選出 村上 晴香 京都府（小学生）
「銅は納豆菌に影響するかどうか？」
JX 金属選出 藤瀬 舞 神奈川県（中学生）
「銅の抗菌の仕組みと硬貨の清潔さについて」
三菱マテリアル選出 田中 愛夕 滋賀県（中学生）
「抗菌効果調査」
群馬大学 板橋先生選出 破田野 智皇 京都府（中学生）
「6種の菌と7枚の硬貨」

団体賞 中学生

東 美桜莉、栗栖 穂乃香、齋藤 健太 広島県
(広島市立安佐中学校)

「学校プールの持続可能な浄水方法の提案
-銅イオンの抗菌作用に注目して-」

受賞のコメント
「受賞して本当に嬉しい。銅の抗菌作用が本当にあるのか心配だったが、実験を進めていくうちに、本当に変化していったのでわくわくして楽しかった。実験結果から銅の抗菌作用で何ができるかを考えるのが難しかった。」と感想を述べ、黒本校長は、「実験をして結果をきちんと出すというのは関心するとともに、是非これを自信にして色々な事にチャレンジして、銅をはじめ色々な金属にも興味をもってほしい」とコメントした。

